

# 雪印種苗育成 “牧草新品種” の紹介

## 1. はじめに

平成14年に当社育成のチモシー 2 品種とオーチャードグラス 1 品種が北海道優良品種に認定されました。

<チモシー>

『ホライズン』

早生品種、系統名：SBT9502

『シリウス』

晩生品種、系統名：SBT9504

<オーチャードグラス>

『バッカス』

晩生品種、系統名：SBO9504

これらは現在増殖中ではありますが、ホライズンは、本年から少量販売を開始しており、2006年から本格販売を予定しております。ホライズンについて、試作を希望される方は最寄りの当社営業所へご連絡いただければ幸いです。シリウスとバッカスにつきましても、2006年からの販売を目指して海外増殖を始めております。今回はこれらを中心に雪印育成の牧草新品種を紹介いたします。

## 2. チモシー新品種『ホライズン』の特性

◇系統名：SBT9502

◇早生品種

◇再生力が優れ、2 番草が特に多収

◇耐倒伏性が優れる

◇当社で販売している早生品種『ホクセイ』の後継品種

『ホライズン』の出穂始は全道平均でクンプウより5日遅く、ノサップより2日早い早生品種です。

『ホライズン』の特徴として、1 番草刈取り後の再生力が良好であり、2 番草が多収であることが挙げられます。ノサップは1 番草刈取り後の再生力が優れる早生品種ですが、全道の試験結果では、ノサップの2 番草収量を上回り、乾物収量対比で105~127%の多収となりました。『ホライズン』の2 番草多収の要因として、2 番草における出穂茎数が多いことが挙げられます。なお、1 番草はノサップ並みの多収性が確認されております。

『ホライズン』のもう一つの特徴として、耐倒伏性が優れることが挙げられます。1 番草収穫時は、晴天が続かず、良質のサイレージや乾草調製が難しいのが現状ですが、倒伏に強い品種は倒伏やナビキによる下草の蒸れが少なく、水分調整の場面で有利となります。

## 3. チモシー新品種『シリウス』の特性

◇系統名：SBT9504

◇直立型(採草タイプ)の晩生品種

◇刈取り適期を拡大できる

◇遠隔地など年間1回刈り草地などへの利用にも適している

◇斑点病抵抗性が優れる

『シリウス』の出穂始は全道平均でキリタツプより3日遅く、ホクシュウと同日の晩生品種です。

ホクシュウは、本来、採草放牧兼用品種ですが、茎数が多く、草型も採草用品種と比較すると開帳型であるため、実際には放牧地での利用が主体でした。晩生新品種『シリウス』はホクシュウよりも直立型の草姿であり、主に採草用に適します。

チモシーではこれまで、刈取り適期の拡大を目的に極早生~中生までの採草用品種が育成されてきましたが、『シリウス』の育成により、更に刈取り適期の拡大が可能となりました。『シリウス』の利用場面としては、遠隔地の草地で遅刈りとなる草地や年間1回刈り草地への利用が想定されます。

## 4. オーチャードグラス新品種『バッカス』の特性

◇系統名：SBO9504

◇晩生品種

◇越冬性が優れる

◇春の萌芽が良好

◇各番草ともに多収である

◇各種病害抵抗性が優れる

『バッカス』の出穂始は全道平均でオカミドリより2日遅く、トヨミドリより3日早く、当社で販売してきたヘイキングとほぼ同熟期の晩生品種です。

『バッカス』は越冬性と各種病害抵抗性が優れ、十勝や網走などの道東地域でも栽培が可能です。また、オーチャードグラスの特性として、再生力が旺盛であり、各番草ともに多収であるため、面積の制約がある畑作酪農地域などでは利用価値が大きいと思われます。特にアルファルファとの混播では3回刈りによる多収性が期待でき、嗜好性と栄養価が優れた牧草を生産することが可能です。

アルファルファは土壌条件や栽培技術の難しさから、なかなか導入しにくい草種ですが、近年、北農研センターを中心とする品種育成や栽培技術の確立により、道東地域における普及も盛んになってきました。当社では、越冬性、そばかす病抵抗性および収量性が優れるアルファルファ新品種『SBA9801:仮称』を育成し、本年より本格販売を開始しております。

(北海道研究農場 谷津)

## 雪印種苗株式会社

編集発行人 城座 勝明

本社004-8531札幌市厚別区上野幌1条5丁目1番8号

TEL (011)891-5911

FAX (011)891-5774